

書叢ルラネゼ

(一冊各五錢)

- | | | |
|-----|---------------|-------|
| 第一編 | 國家禁酒論 | 賀川豊彦 |
| 第二編 | 労働問題と禁酒運動 | 島田三郎 |
| 第三編 | 近世資本主義の罪と宗教 | 賀川豊彦 |
| 第四編 | 人間を呪ふ三つの惡魔 | 菊池米太郎 |
| 第五編 | 公娼制度の破壊 | 賀川豊彦 |
| 第六編 | 精神文明とアルコホーリズム | 賀川豊彦 |
| 第七編 | 普通選挙の精神 | 今井嘉幸 |
| 第八編 | 消費組合と労働組合 | 賀川豊彦 |

精神文明とアルコホーリズム

賀川 豊彦

亡國の二方法

國を亡ぼしますのに二つの方法があります、一つの方法は武器を持つて戦ふことでありまして、もう一つの方法は毒藥をもつて國民の身體を損ふことでもあります、英吉利が支那に向つて執りました方法はそれであり、武器を以てする代りに阿片を賣らして、今から約八九十年前に、印度から年二千萬圓から三千萬圓の阿片の輸入品を支那に持込みまして、あの恐ろしい阿片戦争を起したのは英吉利であります、文明は徐々に腐爛して、各種の刺戟を用ひなくちやならぬといふやうな妙な心理作用を見るのであります、或は阿片であるとか、或はモルヒネであるとか或はコカインであるとか或はアルコールのやうなものを川ひまして、其刺戟に使ふのであります、恰度人體に或る刺戟を要求する如くに、文